

# 工学部だより

2020.3

No.25



## 新白楊寮入寮スタート!

老朽化に伴い、2018年3月から工事が進められていた米沢キャンパスの白楊寮が完成し、2019年3月28日、開寮式が行われました。

新白楊寮は、地上3階建てで定員は250名。バス・トイレ、ミニキッチン付きの完全個室です。

これまでは男子学生のみが入寮可能でしたが、女子学生や留学生も入寮可能となっており、希望者には有料の食事提供サービスもあります。



## 目次

自分発の新しいこと	2	平成30年度卒業・修了者の就職状況	13
学務委員会だより	3	キャリアサポートセンターだより	14
教務委員会だより	3	就職活動と後輩へのアドバイス	14
学生相談室だより	3	山形大学工学部後援会会則	15
山形の未来を切り開け!		平成30年度一般会計収支決算書及び	
米沢キャンパスでの多文化共生	4	令和元年度一般会計収支予算書	15
学生による留学体験談	4	山形大学工学部保護者懇談会	
学科(専攻)だより	5	今年度(2019年度)実施報告と	
白楊寮に1年間住んでみて	10	来年度(2020年度)開催予定	16
山形大学・米沢栄養大学・米沢女子短期大学3大学合同		お知らせ	16
ドッチビー大会を開催しました!	11	令和2年度工学部年間予定表・後援会通信	16
2019年度卒業・修了予定者の就職内定・			
進学予定先一覧	12		



## 自分発の新しいこと

工学部長 飯塚 博

工学部後援会の皆様には、学生の課外活動や米沢キャンパスの諸行事・教育環境整備にご支援頂いております。感謝申し上げます。

工学部の近況をご紹介します。平成29年度に学部改組を行い、その年次の学生が令和3年4月に大学院進学を迎えます。現在は、その学年進行に合わせて大学院改組の準備を進めています。改組後の大学院では、分野横断型科目やAI・IoT等に関連した情報科学科目を増やす計画です。また、学生の研究指導では複数教員が進捗確認する体制を整えます。さらに、起業家精神を育む教育及び学外インターンシップや海外留学に参加しやすい教育システムも検討しています。社会から求められる多様な人材要請に応えられる学部・大学院教育を目指しています。

さて、令和元年秋に、次代に求められる人材像について、ヒントとなるイベントが幾つか開催されました。ひとつは本学の国際事業化研究センターが主体となって山形市内で開催した「地域活性化イノベーションキャンプ」です。全国の大学等に呼び掛けて、身近な課題の解決を目指すビジネスプランを募集し、そのプランの改善指導と審査を3日間かけて行いました。自由な雰囲気の中で、中には深夜まで議論を重ねていたチームもありました。本学のEdge-Next等のアントレプレナーシップを育むプロジェクトには既に多くの学生が参加しています。各自が持っているアイデアを形にする能力は今後益々重要になってくると思います。

2つ目は、12月に工学部で開催された学長講演会です。講師はベンチャー企業を起こし、世界で活躍しているブロードバンドタワー社長・藤原洋氏、演題は「全産業デジタル化時代のイノベーションと人材育成」でした。「時代は大きく変化してきている

が新しい産業がまだ出来ていない。技術で社会を変えよう・新しいことをしよう。大学を拠点に皆が技術を持ち寄って活動するオープンイノベーションで生き残る。」等の示唆に富んだお話を伺いました。質疑討論では、大企業を去って起業したその動機を「技術をやりたかったから」、そこで営業まで担当した経緯を「作ったものを自分で売りたいかったから」と単純明快に説明されていました。また、「情報」の次に来る時代のキーワードを「効率ではなく、人が中心になれる技術」と述べておられました。これから社会が進む方向と、そこで求められる人材像を示して頂いたと思います。

上記2つのイベントで共通していたことは、「自分発の新しいこと」の大切さだと思います。18世紀に始まった産業革命は大量生産・大量消費の社会を作りました。その中で、利益を最大にしつつ社会で不足していたモノを製造・供給するために、私達は役割分担をして効率的に生産活動をし、大学はその役割を担う人材を育成してきました。そして今、産業革命から情報革命の時代に移り、これまでの役割を果たす能力に加えて、自分発の新しいモノを生み出し形にする能力が求められて来ているのだと思います。

情報革命への移行と共に私達の周りには情報が溢れていますが、今の「情報の使い方」は、まだ産業革命由来の「効率化」を目指す使い方であるように思います。新しい発想で情報を使う新たな産業の誕生が、大学を拠点としたオープンイノベーションによって生まれたら素晴らしいと思います。

今後とも、教育と研究を通して新たな技術の構築に貢献できる米沢キャンパスを目指します。

## 学務委員会だより

学務委員会委員長 遠藤 昌敏

(大学院理工学研究科 物質化学工学分野 教授)



学務委員会は、学生の教育面と生活面でのサポートを担当する部門であり、学部における教育カリキュラムを円滑に実施すること、学生が大学生活を送る際の様々な支援に関して実務を担当しています。

教育の面では、2019年度は旧7学科として最終年であり、新学科の「高分子・有機材料工学科」、「化学・バイオ工学科」、「情報・エレクトロニクス工学科」、「機械システム工学科」、「建築・デザイン工学科」と既存のフレックスコースの「システム創成工学科」の6学科での教育も並行して順調に進行しております。

学生生活の面では、新たに完成した学生寮（3代

目白楊寮）への入居が開始しました。2代目白楊寮の老朽化に伴い工学部グラウンド近くに移転新築したもので、全室個室でWi-Fi環境なこと、女性用の区画もあり、留学生を受け入れて国際交流をしてもらうことも特徴の一つです。明るくきれいな環境のもと安心して新たなことにチャレンジしてもらいたいです。学生へのケアの面では、全学生と面談を行う他に、副担任制を導入し、学生相談室、障がい学生支援センターとも連携しながらきめ細かな対応を行っております。保護者の皆様におかれましては常日頃のお子さんの様子を感じ取ってお声掛けいただければ幸いです。ご心配な点等ありましたらアドバイザー教員とご相談くださるようお願いいたします。

## 教務委員会だより

教務委員会委員長 野々村 美宗

(大学院理工学研究科 バイオ化学工学分野 教授)



世界情勢や社会構造がめまぐるしく変わっていく中で、大学院教育も変革が進みつつあります。教務委員会では、理工学研究科・有機材料システム研究科における教育をより充実したものにするために、さまざまな取り組みを進めています。2018年度には米沢のキャンパスから遠隔講義システムを利用して医学系研究科・農学研究科・社会文化システム研究科・地域教育文化研究科の先生方の講義を受けることができる「大学院共通科目」が発足し、研究者・技術者として幅

広い教養を身につけるためのチャンスが広がりました。また、2019年度からは高い研究業績を持つ社会人研究者・技術者は最短1年間で博士の学位を取得することができる「大学院早期修了制度」が発足しました。山形大学からたくさんの博士人材を輩出し、社会人の学び直しにも貢献していく予定です。さらに、2021年度には理工学研究科の改組が予定されています。現在、7ある工学系の専攻を再編し、学生たちが自由に学び、研究することができる仕組みを作っていくために、教員一同で準備を進めているところです。保護者・卒業生・講演会の皆様におかれましては、今後とも変わらぬご支援をよろしくお願いいたします。

広い教養を身につけるためのチャンスが広がりました。また、2019年度からは高い研究業績を持つ社会人研究者・技術者は最短1年間で博士の学位を取得することができる「大学院早期修了制度」が発足しました。山形大学からたくさんの博士人材を輩出し、社会人の学び直しにも貢献していく予定です。さらに、2021年度には理工学研究科の改組が予定されています。現在、7ある工学系の専攻を再編し、学生たちが自由に学び、研究することができる仕組みを作っていくために、教員一同で準備を進めているところです。保護者・卒業生・講演会の皆様におかれましては、今後とも変わらぬご支援をよろしくお願いいたします。

## 学生相談室だより

学生相談室長 黒田 充紀

(大学院理工学研究科 機械システム工学分野 教授)



保護者の皆様におかれましては、学生の皆さんに、何か困ったこと（学修面、学生生活面、経済面、健康面、心の内面に関すること、将来への不安、学生間の人間関係、教員との人間関係等々）がある場合には学生相談室に早めに相談するようお願い下さい。工学部では、全教員が学生相談窓口となって迅速かつ適切な対応をとることができるシステムを整備しています。困ったことがある場合には、学生相談室に直接でも結構ですし、身近な教員（アドバイザー教員、指導教員（副指導教員、サポート教員等）、あるいは学生担当事務窓口）に相談して下されば、相談者の同意の下で当室

が対応致します。学生相談室では迅速性を第一としており、情報をキャッチしましたら問題解決に向けて即日動き出しますので、是非信頼して利用して頂きたいと思っております。平成31年4月より、学生相談専任教員（中澤未美子准教授）が着任し、工学部学生相談室はより充実した体制になりました。当室では、学生の皆さんのあらゆる相談に乗り、解決に向けて適切な対応を致します。

また、大学本部では、年に一度、スマートフォンやパソコンで回答する学生生活アンケートを行っています。大学に対する意見、要望、苦情、相談を遠慮なく大学側に伝えて下さい。こうして寄せられた情報についても、大学本部と連携を取りつつ工学部として責任を持って対応しますのでご安心下さい。

また、大学本部では、年に一度、スマートフォンやパソコンで回答する学生生活アンケートを行っています。大学に対する意見、要望、苦情、相談を遠慮なく大学側に伝えて下さい。こうして寄せられた情報についても、大学本部と連携を取りつつ工学部として責任を持って対応しますのでご安心下さい。

# 山形の未来を切り開け！



## 米沢キャンパスでの多文化共生

工学部国際交流センター副センター長  
准教授 仁科 浩美

2019年6月に日本語教育推進に関する法律が公布、施行されました。これは、日本に居住する外国人が日常生活や社会生活を日本人と共に円滑に営む環境を整えることを大きな目的とするもので、生活する上で欠かせない日本語の教育の重要性と必要性が述べられています。この背景には、日本で生活する外国人の増加が見込まれていることがあります。

工学部には、エンジニアを目指す若者が多くいますが、これからは今より一層日本の国内外において外国人と仕事を共にすることが当たり前の社会となるでしょう。そのような場面に出くわしたとき、物おじせず、相手の話をよく聞き、自分の意見を述べるができる力を養っておくことが必要です。

工学部には、2019年12月現在、学部1年生から博士後期課程まで、15か国・地域から93名の留学生が在籍しています。中国、マレーシア、タイ、バングラディッシュなどのアジアはもとより、フィジー、カナダ、グアテマラ、ベネズエラ、ペルーなどからも世界最先端の技術や学問を学ぶために来日しています。日々勉学に勤しむ一方で、米沢を日本人とは異なる感覚で楽しんで

おり、その思考法や価値観を知ることが日本人学生自身の考え方の幅を広げるのにも大いに参考になります。

工学部では学生の皆さんに世界への視野を広げてもらうために、サマープログラムや海外研修実習などの派遣プログラムを提供しており、また大学全体でも様々なプログラムが企画・実施されていますが、特別なプログラムだけではなく、普段の学生生活においても異文化を体験することは可能です。授業、交流活動、国際交流サークルなどを活用し、多様な文化背景を持つ人々と積極的に触れ合い、自分にはない発想や考え方を学んでほしいと思います。

工学部国際交流センターホームページ  
<http://yu-eng-iec.sakurane.jp/ja/>



Share Your Experiences  
留学生による母国紹介



JICEカケハシプロジェクト  
米国・カナダの学生との交流



## 学生による留学体験談

有機材料システム専攻 修士1年

齊藤 慶太

トビタテ！留学JAPAN日本代表プログラムに参加した経験をご紹介します。私は、このプログラムを利用してスペインの研究所に10か月間研究留学を行いました。

世界トップレベルの研究所で最先端の研究をしたい、また、異文化に触れたいという気持ちから留学を決意しました。皆さんは、スペインと聞くと陽気なイメージが浮かび上がるかもしれませんが。そんな中で、世界のトップを走る研究を行い、結果を出し続けるからくりに興味を湧きました。その理由は、ライフワークバランスにあると、日々を過ごす中で感じました。友人の一人が、「良い休みが、良い仕事をもたらす」と言っていました。これには、深く共感を覚えました。実際に、多くの学生は定時付近には帰宅します。その後は、サーフィンに行く学生や、家族との時間をとるなど仕事以外の時間を大切にしています。私自身も、スケボーを始めたり、友人と出かけたりと仕事以外の時間を大切にしよう

になりました。この時間を取るために、実験計画を緻密に立てるなど心掛けると、自然と効率的に仕事が進みました。このような、文化や考え方の違いを知ることは、醍醐味だと思います。

また、研究室でのイベントも多く、クリスマスディナーやBBQ、スキー旅行などを楽しみました。加えて、毎日11時にはコーヒーブレイクがあり、談笑したり実験のことを相談したりします。コミュニケーションを密にとり、円滑な関係を作りたいという目的がそこにはあります。

最後に、留学を通じて視座を高めることができます。つまり、様々な体験を通じて、判断軸や物事を捉える観点が高くなります。また自己成長を感じることもできます。是非、皆さんにも留学を経験して頂きたいです。



研究室メンバーと

# 学科(専攻)だより

## 高分子・有機材料工学科 機能高分子工学科



144名の新入生を迎え入れ、高分子・有機材料工学科の3年目がスタートしました。1～3年生は高分子・有機材料工学科、4年生は機能高分子工学科に所属していることになります。この便りが届く頃には4年生が卒業し、新学科が完成する年となります。

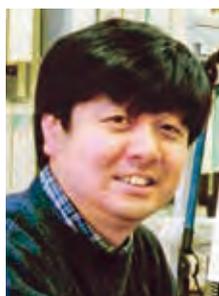
学生諸君には基礎学力を着実に身に付け、サークル活動や友人との充実した大学生活を通して社会人基礎力や人間力も身に付けてほしいと願っております。昨年の12月には当学科が主体となって第2回国際会議IPOMY(International Conference of Polymeric and Organic Materials in Yamagata University)を開催いたしました。参加者数506名、国内外から50名以上の著名な先生をお招きし、高分子および有機エレクトロニクス関連の最先端の研究

教育プログラム長 教授 川口 正剛

成果についての討議、80件以上の学生による英語発表がありました。貴重な経験と自信につながったものと喜んでおります。今後とも学生にプラスになることは積極的に取り入れて行きたいと思っておりますので、引き続き保護者及び後援会の皆様方の暖かいご支援とご協力をお願い申し上げます。



## 化学・バイオ工学科 物質化学工学分野



化学・バイオ工学科応用化学・化学工学コースに改組され3年目となりました。1年生は、学問の基礎となる手法や将来に向け基盤となる勉強を山形市の小白川キャンパスで行っており、本年4月から米沢キャンパスへ移動します。2年生は、昨年4

月に米沢キャンパスへ移動しました。専門の授業が増え、力を蓄えています。特に、本格的な研究の基盤となる技術と知識を身につける学生実験がはじまりました。3年生は、10月に仮配属先が決まり、卒業研究に向けた準備を始めました。3年生と修士1年生の就職希望者は、本年3月からの本格的な就職活動開始を前に、インターンシップやOB・OGセミナー、企業見学会などに参加しています。OB・OGセミナーは、先輩が大学を訪問して会社や就職の説明を行うもので、1日に複数社の訪問も珍しくありません。4年生、修士2年生の就職希望者は、昨年より就職活動を行ってきましたが、1月15日現

教育プログラム長 教授 神戸 士郎

在、4年生と前期課程2年生2年生の内定率は、それぞれ97%、100%となっています。今は、3月の卒業、修了に向け、卒業論文や修士論文のまとめを行っています。私たちは、この先30年を見越し、大学院カリキュラムの再検討を進めてきました。社会の急激な変化にもしっかりと対応出来るよう、より実践的な教育を推進していきますので、今後とも、保護者の皆様のご理解とご支援を御願いたします。



OB・OGセミナー

## 化学・バイオ工学科 バイオ化学工学分野



工学部のバイオ化学工学分野は、バイオ化学工学科2016年4月入学生が最終学年を迎え、進学・就職と卒業生の進路は順調に定まりました。本年度に設置3年目を迎えた化学・バイオ工学科バイオ化学工学コースは、3学年生が化学バイオ工学実

験・英語で各研究室に仮配属され、半年間の課題解決型科目に取り組み始めました。1年生は大学生活にも慣れ、山形市の小白川キャンパスで勉学に勤しんでおり、米沢キャンパスに移った2学年生は、専門基礎とともに実験演習などの本格的な専門科目の受講に取り組んでいます。

人口減少が進む中、社会の変化やニーズの多様化が急速に進行しています。化学・バイオ工学科では、20年後に社会で活躍できる人材の育成を目標とし、専門分野の基礎や



保護者ガイダンス  
2019年4月3日



新入生オリエンテーション  
2019年4月5日

教育プログラム長 教授 多賀谷 英 幸

応用能力とともに、課題を発見し主体的に解決できる能力や他人に働きかけチームで働く能力の修得など、広く社会人基礎力の習得を目指した教育を心がけています。

昨年末に進路ガイダンスを受けた3学年生の進路活動が始まっていますが、春から4学年生として本格的な卒業研究に着手いたします。

今後とも保護者の皆様方のご協力とご支援を宜しくお願い申し上げます。

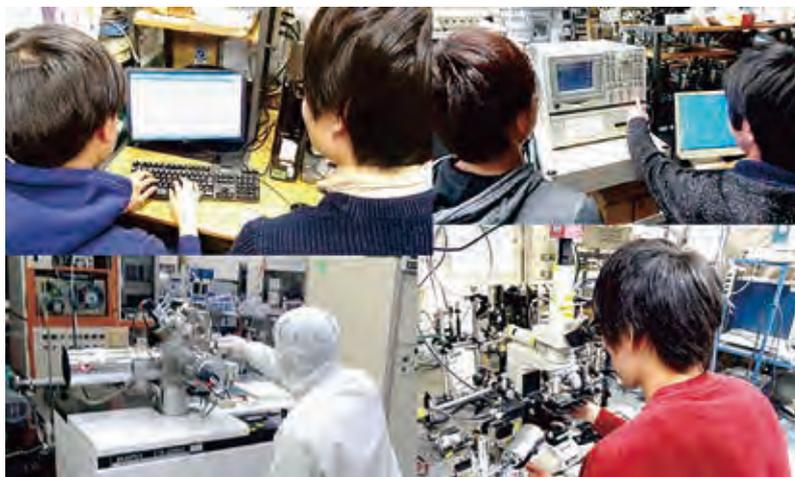
## 情報・エレクトロニクス学科 電気電子工学分野



情報・エレクトロニクス学科が2017年4月より新設され、この3月では1学年から3学年が情報・エレクトロニクス学科の学生で、4学年が、電気電子工学科の学生となります。本分野では、これからの社会を見据

えて、人工知能や機械学習などのソフトウェアと、電子機器や電子回路などのハードウェアに精通した人材育成を目標として、電気電子工学に力点を置いた教育を進めています。さらに、社会のニーズも高度化しており、大学院では高度な専門知識の習得だけでなく、学会発表など教科書以外の実践的スキルが習得できることから進学を薦めています。

現在、就職状況は好ましく、大学院、



教育プログラム長 教授 佐 藤 学

学部ともにほぼ100%です。学生には、幅広く実力を付け、自分に合った分野で、大いに活躍して頂きたいと思います。

今後とも、皆様のご理解・ご支援を宜しくお願い申し上げます。

## 情報・エレクトロニクス学科 情報科学分野



2017年に新設された情報・エレクトロニクス学科も3年が経過し、次年度は新学科に入学した学生が最終学年の4年生となります。新学科は2コース制をとっており、従来の情報科学科の担当教員が主に情報・知能コースを担当しています。本

コース所属教員の多くが8号館に研究室を構えていますが、次年度には8号館東側部分が増築計画と関連して全面改修となります。写真は8号館東側ですが、この風景もまもなく見納めとなります。これまで電情系の学生がプログラミングの演習に取り組んできた電情系計算機室も9号館1階へ移転となります。

本年度これまで行われた各種入試を見ると、昨今の人工知能ブームの影響か志願者も増加し喜ばしい限りですが、大学院進学者はまだ不十分といった状況です。社会に出て技術者として活躍するためには

教育プログラム長 教授 小坂 哲夫

より高度な専門知識も必要で、学生には大学院への進学を薦めています。

今後ますますIoTや人工知能による技術革新が進展していくものと思われます。学生には、このような時代に活躍できる力を身につけて欲しいと願っています。今後とも、保護者の皆様のご理解、ご支援をよろしくお願い申し上げます。



## 機械システム工学科



2020年度は新学科に入学した最初の学年が4年生になり、次年度の大学院改組に向けて大きな節目を迎えます。『新入生には夢と希望を、卒業生には自信と誇りを』と言い続けてきましたが、さてどこまで達成できたでしょうか。研究室に仮配属され、創成系科目に笑顔で取り組んでいる彼らを見ると、うまくいっているようにも思えます。一方、本

学科はJABEE受審の年でもあります。教員にとってはハードな一年になりそうです。

さて、毎年ご紹介していますが、機械システム工学科には友誼会というOB会があります。毎年3年生は2泊3日で関東地区の企業を見学に行きます。その際には、OBの皆さんが学生歓迎会を開いて迎えてくれます。下の写真はその時の

教育プログラム長 教授 妻木 勇一

一枚です。100年以上の歴史を持つ本学科は、多くのOBが社会で活躍しており、様々な形で現役学生を支えてくれています。今年の歓迎会では、積極的に学生達が発言し、OBの方々と和やかに談笑していたのが印象的でした。

最後になりますが、5年半務めた学科長もようやく交替の運びとなりました。これまでのご支援に深く感謝申し上げます。春からは新学科長の下、学科一丸となって教育・研究に邁進致しますので、保護者の皆様のご協力とご支援を引き続きどうぞよろしくお願い申し上げます。



友誼会(機械OB会)による学生歓迎会(メルパルク東京にて)

## 建築・デザイン学科

教育プログラム長 教授 永井康雄



昨年10月に3年生32名が工学部の学生として初めて研究室に配属されました。それぞれが希望する研究分野の教員の下で研究生活の第一歩を踏み出しました。

建築教育の根幹を成す建築設計製図の教育では新たな試みを始めました。2年生の課題では地元の工務店と連携して、実在する土地と施主（建て主）の住宅を提案するというものです。優秀作品を表彰し、作品の中からモデルハウスなどでの実現を検討するというものです。自分の作品が形になるということは、大きな喜びであり、励みになることと思います。3年生の課題では、第一線で活躍するお二人の建築家を講師に招いて、上山温泉と山形市内の七日町御殿塚の二ヶ所を対象敷地として、それぞれの町の再生と活性化のための

提案を行いました。建築家の視点からのアドバイスや設計を進めていく上での考え方など大いに刺激を受けたことと思います。

学科開設から3年が経ち、米沢キャンパスでの学科棟の建設、大学院の新設など、研究環境及び教育環境の充実に努めています。現在、学科の教員は8名ですが、建築・デザイン学の研究領域は広範かつ多岐にわたるうえ、大学院を設置して益々地域社会に貢献するためには研究・教育体制の強化が喫緊の課題です。今後とも皆様のご支援とご協力をお願い申し上げます。



2年生の建築設計製図課題での表彰式



3年生の建築設計製図課題での講評会

## システム創成工学科

教育プログラム長 教授 木俣光正



システム創成工学科は、令和元年度（平成31年度）で10期生52名を迎えることができました。本学科は1年生から工学の基礎および機械工学の基礎を学びます。そして特許コンテストによる特許教育や企業経営を理解するビジネス演習、さらには米沢の伝統を学び、県内の企業訪問を行うなど、社会人基礎力の養成にも力を注いでおります。

2年次からは工学部昼間コースの各専門分野を選択して最終的には選択した専門分野で卒業研究を行います。また、夜間コースの強みを生かし、社会人が専門分野を学ぶ場所としての機能も備わっております。講義だけでは物足りない学生に対しては「チャレンジコース」が用意されており、探究型PBLを実践できます。今年度、大学院進学者は23名、就職率は100%です。今後とも皆様方の温かいご支援とご協力を宜しくお願い申し上げます。



令和元年度(平成31年度)システム創成工学科一同

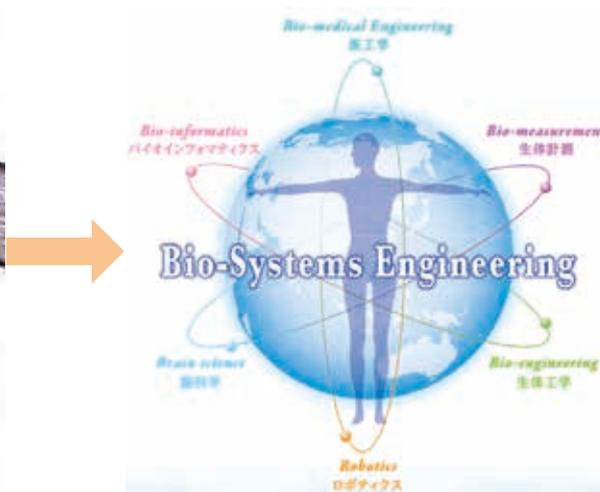
## 応用生命システム工学科



本年度3月に最後の卒業生を送り出すことで、当学科は20年にわたるミッションを終えることとなります。この間に、約1050名の卒業生を社会に送り出してきました。当学科は2000年の学科改組により、「生命のもつ優れたシステムに学び、生命

のしくみを解明し先端技術に応用する」をコンセプトとして誕生し、以来、再生医療、生体材料、生物物理、生体医工学、神経科学、バイオロボティクス、バイオインフォマティクス、生体計測など生命科学と工学の学際領域を専門とする教員がカリキュラムを担当してきました。当時、学部教育におけるこのようなアプローチは、全国的に見ても極めて先駆的なものでしたが、それがかえって仇となり、開設当初は、就職に際し学校推薦を断られることがありました。しかし、教員らで各企業の人事担当者に、当学科のコンセプトやカリキュラムを根気強く説明し

システムに命を与え、命を支援する



教育プログラム長 教授 湯浅哲也

て回るなどの不断の努力により、開設5年目頃からは知名度も増し、医療機器や情報関連企業だけでなく、精密、機械、電機、自動車から通信、電力、医薬、化学、食品などにわたる広い業種から多くの求人が集まるようになり、現在に至りました。このことは、新しい価値を創造しなければならない企業の現場において学際的な視座を持つ人材の重要性が増していることのあらわれであると解釈できます。一方、当学科のカリキュラムは、当時、従来の工学部での教育の常識から逸脱するような前衛的なものもあり、果たしてその効果はどうかとの疑問の声もありました。しかし、現状での引きも切らぬ求人から明らかであるだけでなく、何にもまして卒業生皆さんの実社会でのご活躍を拝見するにつけ、当学科に携わった教員らの努力は、方向性を見誤ってはいなかったと確信しております。卒業生の皆さんにとっては、出身学科がなくなるのは寂しいことであると思いますが、教職員一同、皆さんのこれからのさらなるご発展を心からお祈りしております。

## 学生相談室について

学生相談室は、皆さんがよりよい学生生活を送るためにサポートしています。皆さんの授業、生活、進路、心や体、友達との付き合い、先生との関係、日常の生活を送る上でのトラブル、ハラスメント、等々心配なことがあれば、いつでも相談に来てください。

### 問合せ方法・申込窓口

工学部保健管理室 TEL.0238-26-3034  
平日：8:30～17:00 (土・日曜日、祝日、年末年始を除きます。)  
E-mail: sodan@yz.yamagata-u.ac.jp  
※メールには、学生氏名と学生番号を必ずご記入ください。  
担当：曾根 恵子 (看護師)

## 白楊寮に1年間住んでみて

工学部情報・エレクトロニクス学科2年 恩田光琉



私が山形大学2年目に上がるタイミングでちょうど良い

タイミングで工学部の新しい学生寮に入寮できるということを聞きました。最初はタイミングが良くて新築だということで「一回住んでみようかな」といった、軽い気持ちで申し込みを行いました。実際に1年間住んでみた感想としては、とても快適で安心して過ごせる環境でした。



まず第一に、新築なので外装も内装もとてもきれいです。外装は白黒で落ち着きがあり、シックな外壁となっています。部屋の中も汚れ一つないきれいな部屋となっております。また、一人暮らしをするときに危険な火の元ですが、寮の部屋はオール電化です。IHキッチンヒーターやエアコンが完備されており、シャワーのお湯などもすべて電気で沸かしているため、火事の心配がないことも安心して過ごせる理由の一つです。

更に、寮の中には生活用品やお菓子等を購入することが出来る24時間営業のちょっとした無人販売所もあります。夜遅くに生活用品で困った時などに便利で、大変重宝しております。

ちなみに、午前中から夕方までは寮の管理人さんが常駐してくれているので、もし平日の昼に大学で講義があつて荷物の受け取りができない時でも、管理人さんが代わりに受け取ってくださいますので、時間を気にする必要がありません。

このように新しい白楊寮には良いところが沢山ありますので、ぜひ入寮してみたいはいかがでしょうか。



# 山形大学・米沢栄養大学・米沢女子短期大学3大学合同 ドッチビー大会を開催しました！

(令和2年2月15日(土))

毎年行っている山形大学・米沢栄養大学・米沢女子短期大学合同の雪合戦大会ですが、今年は記録的な少雪の影響で、工学部のグラウンドにも雪が全くない状況が続いたため、代競技として工学部体育館でフリスビーを使用したドッチビー大会を開催しました。

当日は工学部機械システム工学科2年新渡戸大洋実行委員長の開会挨拶の後、来賓としてお越しいただいた中川勝米沢市長の激励を受け、参加した6チーム総当たりで雪合戦大会に勝るとも劣らない白熱した試合が展開されました。

試合の合間にも学生同士の交流が盛んに行われ、3大学の絆が深まる良い機会になったと思います。

## 参加チーム

- ・スノー・ボーラーと気まぐれの騎士団(山形大学工学部) 優勝
- ・じゃーのー(山形大学工学部) 準優勝
- ・チームキムラ(山形大学工学) 第3位
- ・もりけんA(山形大学工学部)
- ・留学生チーム(山形大学工学部)
- ・Team Violet(山形県立米沢栄養大学)



# 2019年度卒業・修了予定者の就職内定・進学予定先一覧

## 1. 工学部

(令和2年1月末現在)

コース	学科	就職内定先・進学予定先	(順不同)
昼 間 ・ A コ ー ス	機能高分子工学科	アイジー工業、アイシン機工、アイリスオーヤマ、青森オリンパス、アルパイン、イノアックコーポレーション、インテック、ウンノハウス、NAAリテイリング、エヌ・デーソフトウェア、オリゾンシステムズ、クラレ 新潟事業所、高志インテック、個人農園、三五、三友堂病院、スズキ、サンリット工業、タイカ、ダイブラ、天昇電気工業、デンソーテクノ、東北インフォメーション・システムズ、東北エプソン、栃木県警察、中本ボックス、日精樹脂工業、日本繊維製品品質技術センター、日本電産、日本電子、ビッツ、山形県警察、山形県職員、山形座 瀧波、山形パナソニック、リコーインダストリアルソリューションズ、山形大学大学院(72名)、東京工業大学大学院(2名)、東京大学大学院、大阪大学大学院	
	物質化学工学科	関東化学(2名)、AGCエレクトロニクス(2名)、メイテック(2名)、工藤設計、クリエートメディック、産業分析センター、サンデンホールディングス、昭和電線ホールディングス、白河オリンパス、新光電気工業、新興ブランテック、ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング、大学生協東北地区、高田工業所、武州ガス、天童木工、東芝キャリア、東芝メモリ岩手、東洋クオリティワン、トッパンインフォメディア、ニチコン、日本ケミコン、日本原燃、日本重化学工業、濱田酒造、福島県職員、丸三製紙、丸木医科機械、武蔵野、レンゴー、YKK、山形大学大学院(40名)	
	バイオ化学工学科	日新製薬(2名)、JFE鋼板、SFPホールディングス、アイリスオーヤマ、アキレス、イオンリテール、河村電器産業、協同油脂、三菱石油、第一三共バイオテック、大和製罐、中央エアゾール化学、塚田理研工業、東北NSソリューションズ、ニチパン、日研トータルソリューションズ、日東紡績、ニプロ、日本精機、日本年金機構、日立化成、武州製菓、朋和産業、みどり化学、T&K TOKA、エイジェック、エムエスピー、クラレ 新潟事業所、小松製作所、システックス、セゾンファクトリー、寺岡製作所、秀鳳酒造場、山形大学大学院(27名)、東北大学大学院(5名)、群馬大学大学院	
	応用生命システム工学科	医療システムズ(2名)、富士通ビー・エス・シー(2名)、NECネットイノベーション、エヌ・デーソフトウェア、キャノンメディカルシステムズ、シスメックスCAN、スタッフサービスエンジニアリング、テクノ・マインド、バラカ、一条工務店、会津若松市職員、ANACargo、LIXIL、SHIFT、アイシーエス、朝日システム、イノメディックス、かわでん、駿河生産プラットフォーム、大昌電子、タカラレーベン、ティ・アイ・シー、ネオキャリア、リーン、山形テレビ、明電舎、三和ロボティクス、大日本印刷、中村留精密工業、長野オリンパス、東ソー・クォーツ、東日本旅客鉄道、栃木県職員、明和地所、山形大学大学院(28名)	
	情報科学科	ソフトクリエイトホールディングス(4名)、日立社会情報サービス(2名)、東日本旅客鉄道、東日本高速道路、NECディスプレイソリューションズ、アイ・イー・シー、エヌ・デーソフトウェア、協栄産業、サイバーコム、スズキ、大日本印刷、テクバン、東海旅客鉄道、東芝テック、東北電力、トヨタ自動車東日本、日販コンピュータテクノロジー、ハイテックシステム、北海道旅客鉄道、BookLive、NS・コンピュータサービス、NTTデータ東北、アイ・エス・ビー、アイヴィス、アイエイアイ、インテック、エヌ・ティ・ティ エムイー、さくらんぼテレビジョン、シーエスデー、スタッフサービスエンジニアリング、スベック・システム、ソフトウェアコントロール、テクノツリー、テクノプロ テクノプロ・エンジニアリング社、テクノプロ テクノプロ・デザイン社、ナナイロ、日本デジタル研究所、日立産業制御ソリューションズ、日立ソリューションズ東日本、ビッツ、ユードム、日立システムズ、日立ソリューションズ、富士通アドバンスドエンジニアリング、日本ラッド、山形大学大学院(21名)、東北大学大学院(3名)、東京農工大学大学院	
	電気電子工学科	東北電力(3名)、日本工営(2名)、東日本旅客鉄道(2名)、AGCディスプレイグラス米沢、NECプラットフォームズ、アイ・イー・シー、アズビル、インフォテック、北芝電機、静岡県職員、スプレーイングシステムスジャパン、東北インフォメーション・システムズ、西山電気、ニプロ医工、パピレス、三菱電機ホーム機器、山形県職員、ユアテック、横河電子機器、京三製作所、シーエーシー、デンソーFA山形、デンソー山形、トーキン、ネオラボ、ネクスコ・エンジニアリング東北、日立パワーソリューションズ、住田光学ガラス、古河電工パワーシステム、三菱ビルテクノサービス、山形カシオ、鹿島南共同発電、清水建設、大豊工業、日新電機、日本精機、八千代工業、北陸電力、山形大学大学院(29名)、東北大学大学院(2名)、電気通信大学大学院(2名)、東京工業大学大学院、北海道大学大学院	
	機械システム工学科	トヨタ自動車東日本(3名)、スズキ(2名)、いすゞ自動車(2名)、アマダホールディングス(2名)、SOLIZE Engineering、THK、アンデン、オムロンエキスパートリンク、亀田製菓、小森マシナリー、白河オリンパス、シロキ工業、スミダ電機、セコム工業、ゼネラルエンジニアリング、大同信号、高砂熱学工業、帝人、東京エレクトロングループ、東北エプソン、東北電力、トヨタ紡織、日特エンジニアリング、日本航空電子工業、パピレス、三菱電機製造、日本信号、日本精工、東日本旅客鉄道 東京支社、日立化成、日立建機カミーノ、藤倉航装、三菱電機ビルテクノサービス、森永エンジニアリング、山形カシオ、山形航空電子、SUBARU、アテネコンピュータシステム、エムフロ、近藤製作所、ジャムコエアロマニュファクチャリング、信興テクノミスト、ソフトクリエイトホールディングス、ニフコ山形、ハッピージャパン、ホンダテクノフォート、メイテック、山本製作所、彌満和プレジジョン、ユアテック、ヨコオ、山形大学大学院(54名)、東北大学大学院(5名)、神戸大学大学院	
フレックスシステム創成工学科	東日本旅客鉄道(2名)、ANA中部空港、安積疏水土地改良区、キャタピラー・ジャパン、シグマトロン、セイコーインスツツ、成田空港給油施設、ファナック、不二ラテックス、陸上自衛隊、MI、アルプス技研、オプティム、鷲宮製作所、セイシン企業、タキロンシーアイ、日立ソリューションズ、マエダ、四国電力、日信ソフトエンジニアリング、日特エンジニアリング、日本アルカディアネットワーク、静甲、山形大学大学院(19名)、名古屋大学大学院		

## 2-1. 大学院理工学研究科博士前期課程(工学系)

専攻	就職内定先・進学予定先	(順不同)
物質化学工専攻	千住金属工業(2名)、EMデバイス(2名)、プラス・テック(2名)、DOWAホールディングス、NTTデータアイ、NTTデータ東北、オリゾン、川研ファインケミカル、京セラ、高級アルコール工業、住友大阪セメント、ダイセル、大日精化工業、大陽日酸、田島ルーフィング、多摩化学工業、テクセリアルズ、東京ガスエンジニアソリューションズ、東芝マテリアル、日本ケミコン、ボーラ化成工業、三菱アルミニウム、山形航空電子、ユニバーサル製罐、吉野石膏、T&K TOKA、有沢製作所、クレハ、ジーシー、チノール、彌満和製作所、山形大学大学院(2名)	
バイオ化学工専攻	日新製薬(2名)、日立化成(2名)、DNPファインケミカル、アイ・シー・エス、大阪ガスケミカル、協同油脂、経済産業省、興国インテック、スリーエムジャパン、大日精化工業、太平洋セメント、中外製薬工業、ディップソール、デンカ、東芝メモリ、東ソー・クォーツ、東邦化学、東洋合成、凸版印刷、日東紡、ニプロファーマ、ニプロ、日本バイリン、広業化学工業、フジクラコンボジット、三菱商事ライフサイエンス、ラピスセミコンダクタ、JSP、小嶋総本店、三五、サンブラネット、ブリヂストン	
応用生命システム工学専攻	テルモ(2名)、東北電力(2名)、アルパイン、キャノンメディカルシステムズ、キャノン、ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング、会津オリンパス、JVCケンウッド、YCC情報システム、大気社、トプコン、トプコン山形、レジェンドアプリケーションズ、東邦システムサービス、東北バンキングシステムズ、川崎重工業、太陽誘電、日本マイクロソフト、日野自動車、日立ジョンソンコントロールズ空調、富士通、富士電機、山形大学大学院	
情報科学専攻	ソフトクリエイトホールディングス(4名)、AJS、KDDI、NECエンベデッドプロダクツ、旭化成EICソリューションズ、サクシード、大日本印刷、東北電力、東日本電信電話、三菱電機エンジニアリング、NSソリューションズ東京、テクノプロ テクノプロ・デザイン社、バッファロー、パナソニックシステムネットワークス開発研究所	

電気電子工学専攻	東北電力(2名)、東京エレクトロン(2名)、パナソニックシステムネットワークス開発研究所(2名)、フジクラ(2名)、NOK、TDK、いすゞ自動車、ジヤトコ、新電元工業、杉崎計器、スマダ電機、ダイハツ工業、日本工管、日本航空電子工業、日本電波工業、日立化成、日立金属、三菱電機エンジニアリング、三菱電機、エイ・ダブリュ・エンジニアリング、大林組、東北村田製作所、明電舎、東北NSソリューションズ、日本エー・エス・エム、山形大学大学院
機械システム工学専攻	スズキ(3名)、東京エレクトロングループ(3名)、トヨタ自動車(2名)、本田技研工業(2名)、アマダホールディングス(2名)、セコム工業(2名)、東芝テック(2名)、フジクラ(2名)、NOK、TDK、THK、YKK AP、カルソニックカンセイ、グロブライド、ゲンゼ、国土交通省関東地方整備局、小森コーポレーション、シグマ光機、ジヤトコ、住友重機工業、住友電気工業、世紀、テルモ、東京電力ホールディングス、東芝デベロップメントエンジニアリング、東北エプソン、東北電力、凸版印刷、日特エンジニアリング、日本精工、パソルR&D、東日本旅客鉄道 仙台支社、日立金属、日立建機、日野自動車、富士紡ホールディングス、古河機械金属、三木プーリ、三菱自動車工業、三菱マテリアル、宮城県教員、山形市職員、ヤマハ発動機、LIXIL、SUMCO、UACJ、VSN、アドバンテスト、荏原製作所、ケーヒン、ジャムコエアロマニユファクチャリング、タンガロイ、チノー、ニコン、日立インダストリアルプロダクツ、マキタ、モビテック
ものづくり技術経営学専攻	JXTGエネルギー、キャノンメディカルシステムズ、ジヤトコ、トヨタ紡織、ミクロン精密、山形大学工学部、荘内銀行

## 2-2. 大学院有機材料システム研究科博士前期課程

専攻	就職内定先・進学予定先 (順不同)
有機材料システム専攻	東京エレクトロン(4名)、日立化成(2名)、住友理工(2名)、信越ポリマー(2名)、ニチアス(2名)、出光興産(2名)、AGCエレクトロニクス、ASEジャパン、DIC、NOK、アイカテック建材、曙ブレーキ工業、イチカワ、宇部エクシモ、宇部産業、キャノン、京セラ、キョーラク、群栄化学工業、高級アルコール工業、光洋産業、シャープ、住友大阪セメント、住友電気工業、スリーエムジャパン、全国農業協同組合連合、仙台市職員、ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング、大日精工工業、多摩化学工業、中興化成工業、東芝メモリ、東洋紡、トヨタ自動車、日興化成、日産化学、日鉄鋼管、日東紡績、日本インテグリス、日本電産、日本ミラクトラン、パナソニック、ヒロセ電機、ポリプラスチックス、本州化学工業、マツダ、松谷化学工業、山一化学工業、山形東亜DDK、リンテック、ロンシール工業、IHIキャスティングス、JSP、イノアックコーポレーション、エスケーエレクトロニクス、エンプラス、オリジン、クラレ、クラレ 新潟事業所、ササクラ、ジーシー、スリーボンドホールディングス、寺岡製作所、東海理科電機製作所、東ソー分析センター、トーキン、ニフコ、ネオス、ユボ・コーポレーション、ワールドインテック、山形大学大学院

## 3-1. 大学院理工学研究科博士後期課程 (工学系)

専攻	就職内定先・進学予定先 (順不同)
物質化学工学専攻	国立高等専門学校機構 八戸工業高等専門学校

## 3-2. 大学院有機材料システム研究科博士後期課程

専攻	就職内定先・進学予定先 (順不同)
有機材料システム専攻	SCG Chemicals Co., Ltd.、有職者(3名)

※敬称略

# 平成30年度 卒業・修了者の就職状況

(平成31年4月15日現在・3月卒・修了者のみ)

学科・専攻別 事項	工学部 昼間・Aコース								工学部 フレックスコース		博士前期								合計	
	機能高分子工学専攻	物質化学工学専攻	バイオ化学工学専攻	応用生命システム工学専攻	情報科学専攻	電気電子工学専攻	機械システム工学専攻	計	システム創成工学専攻	計	有機材料システム専攻	物質化学工学専攻	バイオ化学工学専攻	応用生命システム工学専攻	情報科学専攻	電気電子工学専攻	機械システム工学専攻	技術経営学専攻		ものづくり専攻
卒業・修了 予 定 者 数	109 (17)	79 (19)	60 (36)	53 (20)	79 (6)	72 (6)	117 (4)	569 (108)	40 (5)	40 (5)	81 (14)	42 (9)	32 (10)	21 (7)	26 (0)	37 (1)	66 (4)	3 (0)	308 (45)	917 (158)
就 職 希 望 者 数	27 (5)	36 (14)	22 (15)	30 (11)	45 (3)	29 (4)	53 (1)	242 (53)	22 (3)	22 (3)	78 (12)	38 (9)	30 (10)	20 (7)	24 (0)	36 (1)	62 (2)	1 (0)	289 (41)	553 (97)
自 営 希 望 者 数	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)
進 学 希 望 者 数	82 (12)	41 (4)	34 (18)	22 (8)	33 (3)	42 (2)	64 (3)	318 (50)	17 (2)	17 (2)	3 (2)	3 (0)	2 (0)	0 (0)	1 (0)	1 (0)	2 (1)	2 (0)	14 (3)	349 (55)
そ の 他	0 (0)	2 (1)	4 (3)	1 (1)	1 (0)	1 (0)	0 (0)	9 (5)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	1 (0)	1 (0)	0 (0)	2 (1)	0 (0)	5 (1)	14 (6)
就 職 内 定 者 数	27 (5)	35 (14)	22 (15)	30 (11)	45 (3)	29 (4)	53 (1)	241 (53)	23 (3)	23 (3)	78 (12)	38 (9)	30 (10)	20 (7)	24 (0)	36 (1)	62 (2)	1 (0)	289 (41)	553 (97)
未 内 定 者 数	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)
内 定 率 (%)	100.0	97.2	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	99.6	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	99.8
就 職 決 定 率 (%)	100.0	92.1	84.6	96.8	97.8	96.7	100.0	96.0	100.0	100.0	100.0	97.4	100.0	95.2	96.0	100.0	96.9	100.0	98.3	97.4

[注] ( ) 内の数字は女子を示し内数である。就職内定率：就職内定者数÷(就職希望者数+自営希望者数)  
就職決定率：就職内定者数÷(卒業・修了予定者数-進学希望者数)である。

県内就職内定者数	5 (1)	5 (4)	2 (0)	3 (1)	8 (0)	6 (1)	9 (1)	38 (8)	3 (0)	3 (0)	2 (0)	1 (0)	4 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	5 (0)	0 (0)	13 (0)	54 (8)
県内就職内定率	18.5	14.3	9.1	10.0	17.8	20.7	17.0	15.8	13.0	13.0	2.6	2.6	13.3	5.0	0.0	0.0	8.1	0.0	4.5	9.8

# キャリアサポートセンターだより



## キャリアサポートセンター長 黒田 充紀

(大学院理工学研究科 機械システム工学分野 教授)

工学部では、各分野（学部学科・大学院専攻）において、就職担当教員が学生との個別面談を行い、就職支援に深くかつ積極的に関わっております。工学系では、一般に大学教員と産業界との繋がりが深く、企業や業界の様々な情報が自然と集ります。各学科・専攻の就職担当教員で構成される就職連絡協議会を定期的に開催し、情報交換を通して学生の就職とキャリア形成への支援活動を組織的に展開します。これらの支援体制に加えて、キャリアサポートセンターでは、キャリアカウンセラーが学生の個別の相談に応じます（予約制）。

令和元年度は就職内定率の伸びは順調で、学部学生においては9月の時点で90%に達し、この原稿を書いている時点（1月）ではほぼ100%に達しようとしています。大学院修了予定者の就職内定状況はさらに順調でした。一方で、令和元年度工学部卒業者の大学院進学率は49%と、前年度の55%に比べて減少しました。

大学院は生涯にわたる技術者・研究者としてのキャリ

アの学術的基盤を築く場です。大学院教育は日本の高度ものづくり技術の学問的な基盤を支えてきました。近年は学部低学年次からのインターンシップが一般化してきており、それをきっかけに早期に就職希望先を絞る学生も増えているようです。学部卒業時にある企業に就職できたとしても、その企業の存続も含めて、社会はどんどん大きく変化します。既存の製品分野が衰退・消滅する一方で、新たなイノベーションが次々と生み出される時代です。自ら革新的技術に携わり、社会の変化に対応しながら生涯にわたって安定して活躍し続けるためには、やはり個人の学術的基盤力は大事と言えます。この点を十分考えて進路を決めて頂きたいと思っております。

今年度も3月1日から3日間にわたり米沢市営体育館にて、大規模な合同企業説明会（山形大学工学部・県立米沢栄養大学・県立米沢女子短期大学の共催）を開催する予定でありましたが、新型コロナウイルスの影響で残念ながら中止となりました。就職担当教員を中心に、別の形でのサポート体制を一層強化して参ります。

## 就職活動と後輩へのアドバイス



### 後悔しない就活をするために

応用生命システム工学科 4年 大武 貴幸

私が就職活動を通して最も重要だと感じたものは、きちんと自己分析をすることです。自己分析は企業選びや、ESや面接など、就活の最初から最後まで関わってくる重要なものです。

就活セミナーなどでよく聞く「自己分析」ですが、多くの学生が自己分析を中途半端にしたまま就職活動を終わってしまうような気がします。実際、私自身もセミナーで教わったようにうまく自分を振り返ることができませんでした。この記事では、私の自己分析の仕方についてお伝えしたいと思います。

私は、多くの場所に足を運ぶことで自己分析を行いました。就活中は時間がある限り様々な企業を見て多く人

に話を聞くことを意識していました。様々な企業を見ることで興味の有る無しが少しずつ分かってきます。それぞれに共通するものは何かを考え、そして興味のある分野だけでなく、興味のない分野に対しても、「なぜ興味がないのか？」と問いかけて具体的に言語化していくことが大切です。そうすることで、一人で振り返るだけでは見えてこなかったものが見えてくると思います。

また自己分析をきちんとしたかどうかで、就活後の満足度に大きな影響があると思います。新卒の就活は、この先の40年を決めるかもしれない一生に一度の機会です。自分の気持ちに素直に向き合い、悔いのない就職活動を送ることを応援しています。

### 就職活動と後輩へのアドバイス

物質化学工学専攻 2年 篠原 直



私は昨年度の夏と冬に2週間ずつ、計1ヶ月の期間、共同研究先の会社にインターンシップという形でお世話になりました。研究目的も勿論ありましたが、長期間のインターンシップは、日常的な部分も含めてその職種について深く知ることができる貴重な機会となりました。本格的な就職活動は毎年3月初めに行われる、大学主催の合同企業説明会を機に始めましたが、志望職種の絞り込み等スムーズに進み、希望の会社から内定をいただくことができました。

就職活動についての私からのアドバイスは2つです。1つは、面接の練習を多くこなしておくことです。本選考でもインターンシップでも実際に面接を受けに行くこと

き、緊張する人がほとんどだと思います。その場で自分が考えていることをはっきりと述べるためには、実際に面接を体験して場慣れしておくことが大事です。予期しない質問がきた場合のアドリブでの回答練習もしておくとうれしいです。もう1つは、友人や家族等と就職活動状況を話し合うことです。就職活動で悩んでいるときや苦しんでいるとき、それを話すことができる相手がいるといないと、気の持ちようが変わってくると思います。例え不安になったとしても、一人で抱え込まずに周りの人と話してみましょう。

自分の将来の道を決める大切な時間ですので、たくさん時間をかけて後悔しない選択をしてください。

## 山形大学工学部後援会会則

(名称及び事務所)

第1条 本会は、山形大学工学部後援会と称する。

第2条 本会は、次に掲げる会員をもって組織する。

- 工学部学生の保護者並びに大学院理工学研究科(工学系)及び、大学院有機材料システム研究科学生の保護者
- 工学部に勤務する教職員
- 本会の趣旨に賛同する者

第3条 本会の事務所は、山形大学工学部に置く。

(目的及び事業)

第4条 本会は、工学部の教育及び運営に協力し、併せて学生、教職員の福利厚生  
の向上を図るとともに、学生の課外活動を育成援助することを目的とする。

第5条 本会は、前条の目的を達成するために、次の事業を行う。

- 学生の教育、課外活動及び就職斡旋に必要な助成
- 学生及び教職員の福利厚生に必要な助成
- その他、本会の目的達成に必要なこと。

(役員及び任務)

第6条 本会に、次の役員を置く。

- 会長
- 副会長
- 理事
- 監査
- 幹事

第7条 役員を選出は、次のとおりとする。

- 会長は、会員の推挙による。
- その他の役員は、会長が会員の中から委嘱する。

第8条 役員任期は、1年とする。ただし、再任を妨げない。

第9条 役員任務は次のとおりとする。

- 会長は、本会を代表し、会務を総括する。
- 副会長は、会長を補佐し、会長に事故ある場合その職務を代行する。
- 理事は、本会の重要案件を審議する。
- 監査は、本会の会計を監査する。
- 幹事は、本会の会務を処理する。

第10条 本会に、顧問をおくことができる。

(会議)

第11条 本会に、審議決定機関として、理事会を置く。

2 理事会は、会長、副会長、理事及び監査を持って構成する。

3 理事会は、原則として年1回開くものとする。ただし、会長が必要と認めたと  
きは、臨時に開くことができる。

4 会長は、理事会を招集し、その議長となる。

第12条 理事会は、次に掲げる事由を審議決定する。

- 会務の報告
- 事業計画に関すること。
- 予算及び決算に関すること。
- 会則の改正に関すること。
- 会長の推挙に関すること。
- その他理事会において必要と認められた事項

(会計)

第13条 本会の経費は、会費、寄付金その他の収入をもってあてるとし、保護  
者の会費は、入学時または編入学時に全納するものとする。

2 納付した会費は、返還しないものとする。

3 会費の額は、別に定める。

第14条 本会の会計年度は、4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

(準則)

第15条 本会に、次の帳簿を備える。

- 会員名簿
- 役員名簿
- 会議録
- 会計簿

第16条 本会の運営に必要な事項は、別に定めることができる。

附 則

1 この会則は、平成8年4月1日から施行する。

2 山形大学米沢教育振興会規則(昭和23年4月1日制定)及び山形大学米沢体育後  
援会規則(昭和25年4月1日制定)は廃止する。

附 則

この会則は、平成12年5月29日から施行し、平成11年4月1日から適用する。

附 則

この会則は、平成16年6月29日から施行する。

附 則

1 この会則は、平成16年12月15日から施行する。

2 改正後の会費については、平成17年度入学生から適用する。

附 則

この会則は、平成17年12月6日から施行する。

附 則

この会則は、平成21年6月19日から施行し、平成21年4月1日から適用する。

附 則

この会則は、平成28年6月17日から施行し、平成28年4月1日から適用する。

## 工学部後援会会費

山形大学工学部後援会会則第13条第3項の規定に基づき、会員が納入する会費は、  
次のとおりと定める。

- 学部学生の保護者 26,000円
- 3年次編入学学部学生の保護者 13,000円
- 大学院(博士前期課程)学生の保護者 13,000円
- 大学院(博士後期課程)学生の保護者 19,500円
- 本会の趣旨に賛同する者

## 平成30年度 一般会計収支決算書 及び 令和元年度 一般会計収支予算書

### 収入の部

(単位:円)

項 目	平成30年度			令和元年度 予算額
	予算額	決算額	差引増減額	
会 費	22,620,000	20,150,000	△2,470,000	22,633,000
繰 入 金	0	4,000,000	1,000,000	
雑 収 入	2,000	105	△1,895	2,000
繰 越 金	271,002	271,002	0	793,290
合 計	22,893,002	24,421,107	1,528,105	23,428,290

### 支出の部

項 目	平成30年度			令和元年度 予算額
	予算額	決算額	差引増減額	
1 学科厚生補導費	1,308,900	1,309,924	△1,024	1,313,400
学部学生指導 補助費	598,400	598,400	0	595,200
学科行事等 補助費	710,500	711,524	△1,024	718,200
2 一般厚生補導費	4,034,000	4,645,570	△611,570	4,329,500
国際交流関係 補助費	600,000	1,353,439	△753,439	1,000,000
TOEIC-IP テスト補助費	1,000,000	870,400	129,600	1,000,000
学務関係補助費	1,000,000	1,131,586	△131,586	1,000,000
保健管理関係 補助費	30,000	20,761	9,239	30,000
理容部運営 補助費	450,000	314,844	135,156	350,000
基盤教育事業 後援費	954,000	954,540	△540	949,500
3 進路対策補助費	20,000	14,668	5,332	20,000
4 学生研究助成費	1,000,000	755,648	244,352	800,000
5 課外活動補助費	800,000	1,406,727	△606,727	1,000,000
6 一般体育設備等 補助費	100,000	0	100,000	50,000
7 厚生施設等環境 整備補助費	500,000	504,306	△4,306	500,000
8 研修行事等関係 補助費	150,000	140,000	10,000	150,000
9 学部渉外関係 補助費	300,000	663,820	△363,820	500,000
10 大学行事補助費	1,500,000	2,607,188	△1,107,188	2,000,000
11 運 営 費	3,415,000	3,829,966	△414,966	3,515,000
会 報 費	750,000	829,244	△79,244	800,000
会 議 費	250,000	148,502	101,498	150,000
通 信 費	10,000	3,346	6,654	10,000
事 務 費	900,000	936,759	△36,759	900,000
旅 費	100,000	0	100,000	50,000
地区別説明会費	1,300,000	1,811,575	△511,575	1,500,000
学園都市推進 協議会費	100,000	100,540	△540	100,000
雑 費	5,000	0	5,000	5,000
12 積 立 金	500,000	0	500,000	0
13 施設協力金	8,700,000	7,750,000	950,000	8,705,000
14 予 備 費	565,102	0	565,102	545,390
合 計	22,893,002	23,627,817	△734,815	23,428,290

# 山形大学工学部保護者懇談会 今年度(2019年度)実施報告と来年度(2020年度)開催予定

保護者懇談会は、全国を3ブロックに分けて開催するようになってから、今年度で9年目となりました。進学・就職に関する講演や教員と個別に相談する時間も設けています。保護者同士の交流の場としても大変好評をいただいておりますので、ぜひこの機会にご参加くださいますようお願いいたします。

## ■今年度 実施報告

地域	開催日	開催会場	参加者数
関東・甲信越地区	9/14(土)	メルパルク東京(港区)	63名
北海道・東北地区	10/12(土)	工学部米沢キャンパス	台風のため中止
中部・西部地区	11/10(日)	KKRホテル名古屋(名古屋)	37名



関東・甲信越地区保護者懇談会の様子

## ■来年度 開催予定

地域	開催予定日	開催予定会場
関東・甲信越地区	9/5(土)	メルパルク東京(港区)
北海道・東北地区	10/10(土)	工学部米沢キャンパス
中部・西部地区	11/1(日)	KKRホテル名古屋(名古屋)



中部・西部地区保護者懇談会の様子

## お知らせ

### ◎各種相談の窓口

#### 学務課学生支援担当 (☎0238-26-3017)

→授業料免除、奨学金、就職、インターンシップ、休・退学、留学、学生寮、サークル活動、健康相談、こころの悩み

#### 学務課教育支援担当 (☎0238-26-3015)

→教務(授業・履修・成績)、教員免許、諸証明書の発行、転学部・転学科、科目等履修生、T A

#### 学務課入試担当 (☎0238-26-3013)

→各種(学部・大学院)入学試験、編入学試験

## 令和2年度工学部年間予定表

### 前期(令和2年4月1日～9月30日)

春季休業：4/1(水)～4/2(木)

授業期間：4/8(水)～7/22(水)

(定期試験・まとめを除く) 開学記念日：10/15(木)

定期試験・まとめ：7/16(木)～7/17(金)

7/27(月)～7/31(金)

補講期間：8/3(月)～8/6(木)

夏季休業：8/8(土)～9/30(水)

9月学位記授与式：9/25(金)

### 後期(令和2年10月1日～令和3年3月31日)

授業期間：10/1(木)～12/24(木)

10月入学式：10/1(木)

冬季休業：12/25(金)～1/11(月)

授業期間：1/12(火)～2/1(金)

(定期試験・まとめを除く)

定期試験・まとめ：1/27(水)～1/28(木)

2/2(火)～2/5(金)

2/8(月)

補講期間：2/9(火)～2/10(水)

2/12(金)

2/15(月)～2/19(金)

春季休業：2/20(土)～3/31(水)

学位記授与式：3/20(土)

### 【後援会通信】

平成27年4月10日、工学部後援会ホームページを開設しました。保護者のみなさまが「必要としている情報」をお伝えすることを第一の目的として運営して参ります。ご意見・ご要望などございましたら、ぜひ後援会事務局へお寄せ下さい。

平成28年度より、保護者懇談会の開催案内は工学部後援会ホームページへ掲載し、参加お申し込みもホームページ内で受け付けております。みなさまのご参加を教職員一同お待ちしております。